

2022-24 年度最終報告書

早稲田大学・日産財団共同研究

『初等中等教育段階におけるリーダー資質の萌芽・ 育成方法に関する調査研究』

発行 2025 年 3 月 31 日

早稲田大学 経営管理研究科 教授 池上重輔

商学学院 准教授 村瀬俊朗

日産財団 常務理事 坂元宏規

事業推進部 石坂美佳子

事業推進部 中島雅弥

事業推進部 大谷利一

目 次

(1) 研究活動の概要	P3
(2) 『Future of Education』 活動報告	P4
(3) 『Japanese way LEADERSHIP 調査』 活動報告	P21
(4) 収支報告	P23

(1) 研究活動の概要

本研究は「初等中等教育段階において、より高度な統合的思考能力の萌芽を促し、将来の社会を主導するリーダー育成に繋ぐ」ことを狙いとした、未来のリーダーを育成する（必要となる能力の萌芽を促す）方法についての調査研究である。目的は中高生を対象とした教材のパッケージ開発を行うことで、当初 2022 年度から 2023 年度の 2 年間の予定で早稲田大学と日産財団の共同研究に取り組み、研究期間を一年延長したが、ほぼすべての目標を達成することができた。

目標としては、『Future of Education』では「未来のリーダー教室」のパッケージ化を図り、学校への導入を実現すること、『Japanese Way LEADERSHIP 調査』では英語版の書籍化を図り、「未来のリーダー教室」のコンテンツを充実・強化することとし取り組んできた。

その結果、『Future of Education』では、2022 年度に完成させた「未来のリーダー教室 導入編」のパッケージを 2023 年度には実際に 2 校の学校へ導入することができた。尚、この様子も含め、日産財団主催の第 10 回・第 11 回理科教育賞贈呈式において、『未来のリーダー教室』学校導入記念特別講演会と題して、伊藤賀一先生よりご講演を頂いた。さらにこれらの結果を踏まえて導入編の内容をアップデートし、財団主催の導入編を実施し、内容を一層充実させた。また、「未来のリーダー教室 展開編」についても 2 回実施し、開発を完了した。さらに参加者の育成の仕組みづくりとして、アルムナイを立ち上げることができ、一人のメンバーが学校でのイベントを企画実施した。またアルムナイの運営委員による合同企画の検討にも着手した。そして理論的枠組みについては、プロモーションビデオを作成するとともに詳細なパンフレット作製の準備が完了し、これによりほぼすべての目標を達成することができた。

『Japanese Way LEADERSHIP 調査』では、早稲田大学と世界最高峰の大学の一つである Wharton School(米国)との共同研究として日本のリーダーシップの現状を、トップリーダーへのインタビューという形で調査・分析してきた。具体的には、日本の各業界の代表的大手企業トップ 200 社を中心に 106 社のトップリーダー（現役と元を含む社長もしくは会長）へインタビューを実施し分析を行った。2023 年度中にはその調査を具体的な Manuscript（原稿）化し、Wharton School Press からの英語版出版が決まったが、出版は 2024 年となったため共同研究期間を一年延長して対応した。本書籍の出版により日本の新しいリーダーシップモデルがどのようにしてトップ企業を変革し、成功に導いたかを解明することができた。今回の Wharton School Press での出版は、日本のみでなく海外のリーダーへの大きな示唆を提供できる可能性は大きく、その意義は益々大きくなったと思われる。また、本成果として前記『未来のリーダー教室』導入編へ『世界を見ることが重要』という観点を導入した。

以上の結果より、『Future of Education』では「未来のリーダー教室 導入編」の学校への導入と「展開編」の開発が完了した。また『Japanese Way LEADERSHIP 調査』は、その結果を「未来のリーダー教室」に反映させるとともに、英語版を書籍化することができた。

以上

(2) 『Future of Education』活動報告

概要でも述べた通り、今年度は『未来のリーダー教室』導入編を学校で2回実施し学校への導入を実現した。その後、財団主催で1回開催し内容の充実を図った。また、展開編のトライアルを2回行い開発完了した。さらに学校導入をPRするための学校導入記念特別講演会や継続的な学びを実現するアルムナイを立ち上げ、そのイベントも実施した。

『未来のリーダー教室 2023』導入編 学校導入 # 1

導入編の学校への導入の第一弾として、静岡雙葉高等学校にて導入編を実施した。当校では、総合的探究の時間で一学年を4つのコースのグループに分けて取り組んでいるが、その一つのグループ60名に対してスキルを身に付ける前段のそもそもの知識を得ることを目的に、担当の先生がファシリテーターとなって実施した。当初、4限で第1章～第4章まで実施して終了であったが、最後にもう1限確保できたので、振り返り授業として伊藤先生、福村先生に登壇いただき質疑を行った。

以下、開催概要

1. 開催日時：2023年6月9日、16日、23日、30日（各7限）、7月13日（1限）
2. 場所：学校法人静岡雙葉学園 静岡雙葉高等学校
3. 教科・単元：総合的な探究の時間
4. 目的：
 - ・スキルを身につける前段のそもそもの知識が必要
 - ・コース制を補うユニバーサルなプログラムとして
 - ・[知の世界を広げる]と[興味を掘り下げ発信する]間のタイミングで
5. 参加実績：高校1年生60名
6. ファシリテーター：木村剛先生
7. オブザーバー：久村理事長、伊藤先生・福村先生（13日振り返り授業に登壇）

8. 当日の様子：



教室風景・木村先生



集合写真



池上先生ビデオ視聴



伊藤先生・福村先生

以上、振り返り等については、学校導入#2と併せて、後述する。

添付資料1_実施計画書（静岡雙葉）

添付資料2_実施同意書（静岡雙葉）

添付資料3_ファシリテーターズマニュアル V2_5.17

添付資料4_進行用スライド_5.17ver

添付資料5_Day1 振り返り 0609

添付資料6_Day2 振り返り 0616

添付資料7_Day3 振り返り 0623 講師コメント記入済

添付資料8_Day4 振り返り 0630

添付資料9_全体振り返り 0713

『未来のリーダー教室 2023』 導入編 学校導入#2

導入編の学校への導入の第二弾として、神奈川県立相模原中等教育学校にて導入編を実施した。当校では、目指す生徒像の実現を目指し、校内での取り組みに加え、積極的に学校外の教育資源を活用する一環として導入を考え、他校の生徒も交えスクールクロスでかつあえて外部のファシリテーターによる実施の要望もあり、既に導入編を実施された静岡雙葉高等学校の木村先生がファシリテーターとなって特別土曜講座として実施した。

以下、開催概要

1. 開催日時：2023 年 7 月 15 日 12:00～16:30
2. 場所：神奈川県立相模原中等教育学校
3. 教科・単元：特別土曜講座
4. 目的：当校の目指す生徒像の実現を目指し、校内での取り組みに加え、積極的に学校外の教育資源を活用する一環として導入を考えました。具体的な生徒像として、以下の3つを挙げている。
 - ・これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒
 - ・豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒
 - ・よりよい社会の構築に貢献できる生徒→ 「次世代を担うリーダーを育成」
5. 要望：より一層、教育効果を高めるため、他校と連携してスクールクロスでの実施と、あえて外部のファシリテーターによる実施を学校より要望された。
6. 参加実績：18 名（スクールクロスで実施）
(相模原中等教育学校 9 名(中 2～高 2)+厚木高等学校 2 名(高 1)、昭和女子大付属昭和中学校 1 名(中 3)、東海大付属高輪台高等学校 4 名(高 2～高 3)、横浜緑ヶ丘高等学校 2 名(高 2))、合計女子 7 名、男子 11 名
7. ファシリテーター：木村剛先生（静岡雙葉高等学校）
8. オブザーバー：伊藤先生、高原先生・上崎先生（相模原中等教育学校）、田村先生（横浜緑ヶ丘高等学校）、金子先生（昭和女子大付属昭和中学校）、野口先生（東海大学付属高輪台高等学校）、ギャメージ先生（厚木高等学校）
9. 当日の様子：



教室風景・木村先生



集合写真



アート創作



高原先生講評

添付資料 1 0_実施計画書（相模原中等）

添付資料 1 1_実施同意書（相模原中等）

添付資料 1 2_振り返り 0715

以下、導入編学校導入 # 1, # 2 を通して良かった点とファインディングスを示す。

良かった点：

〈各学校について〉

- ・ 静岡雙葉学園：キーワードの事前説明、C ラーニングの活用、ビデオの分割等の工夫により、皆さん集中してかつ楽しそうに参加していた。また、C ラーニングへのインプット内容から、理解度もかなり高いことがわかった。また、マスター講師との対話で、大変理解が深まることを実感できた。
- ・ 相模原中等教育学校：木村先生によるファシリテーション、アイスブレイク、グループ分け（5Gr）,各グループでの自己紹介、講義、まとめ。デジタルツールではなく、スケッチブック&ペンによる実施で個性が発揮されていた印象。また、他校の生徒と話したいという動機の生徒が多く、最初から盛り上がって論議をしていた。

〈全体を通して〉

- ・ 2 校での実施において多くの違い、例えば受講者の人数、受講者の属性、ファシリテータの属性、実施形態（通常授業 or 土曜特別講座）等、があり、それに合わせて様々な工夫があった。また、先生からは、コンテンツは意識付けとして有効で、リーダーシップを言語化できたことも良かったとの意見を頂いた。とくに静岡雙葉では「ぐるぐるシンキング」の理解度が高かった。

ファインディングス：

- ・ 様々な工夫により、多様な条件で本教室が実施できることがわかった。→キーコンテンツの明確化。
- ・ 将来ビジョンの有無によっても受け止め方が異なる。→伝え方や強調するポイント工夫。
- ・ 実施者はとにかく時間との勝負。（時間の確保、授業の進め方、使用する教材・道具）→ビデオ長い。
- ・ 木村先生のスキルの高さ実感。→ 先生のための勉強会が必要か。
- ・ 子供たちは学校外との関わりを渴望している。→ スクールクロスも意義深い。（財団主催の教室も含めて）

以上、得られたファインディングにより、内容の改善を図り次回財団主催の導入編へ盛り込むこととした。

『未来のリーダー教室』学校導入記念特別講演会

学校への導入開始を記念し、リクルートスタディサプリ・伊藤賀一先生による特別講演会を実施した。伊藤先生は、京都府出身。法政大学文学部史学科卒業後、東進ハイスクール等を経て現職に就かれた。また、43 歳で早稲田大学教育学部教育学科に入学、49 歳で卒業され、多方面でご活躍です。未来のリーダー教室では、「導入編」のファシリテーターとしてモデル講義に登壇。学校等外部団体での自律的な開催を可能にする教材開発にも協力して頂いた。

以下、開催概要

1. 日時：7 月 28 日 13:00～17:25（講演は 15:50～16:40）（+懇親会）
2. 場所：横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 5F『日輪』
3. 式典名:公益財団法人 日産財団 第 10 回・第 11 回理科教育賞 贈呈式
4. 講演会名：『未来のリーダー教室』学校導入記念特別講演会
5. 出席者：受賞校 8 校の校長 & 先生、各地区教育委員会。

良かった点：

- ・受賞校の先生からは懇親会にて、ぜひファシリテーター教育から受けてみたいといった意見も頂け、関心を持っていただいた。九州の先生からは伊藤先生にぜひ学校へ話に来て欲しいとの要望もあった。また、その後の e-はがきでの紹介記事の反響でも九州の先生から、機会があれば生徒に受けさせたいとの要望もあり、大変好評であった。

ファインディングス：

- ・中高に限らず小学校や大学の先生方大変興味を持っていただけることをあらためて感じた。
- ・意識が高くやる気のある若い先生とそれを認める校長先生がいると取り組みやすい。
- ・先生方も今後さらにファシリテーションなどのスキルが必要であると感じ、学びたいと思っている。
- ・全国の先生たちへの展開等、SS 業務との融合も見えてきた。



【講演動画】 <https://youtu.be/WJS7M2cOaxw?si=TwOo0CJ9nGcFaoUl>

『未来のリーダー教室 2023』展開編 # 1

夏休みに高校生（中学生含む）を対象に、「未来のリーダー教室」『展開編』の1回目のトライアルを日産自動車とのコラボにより開催した。

今回は、初めての展開編ということもあり、今後の開発に向けてファシリテーターやコラボ先候補となる先生や企業 CSR 担当者、その他興味をお持ちの医師や弁護士の先生方にもオブザーブして頂き、ご意見を頂くとともに、今後の関係を築くことを目的とした。

尚、今回はすべて早稲田大学で行い、ダイレクトコミュニケーションをとる形で実施し、オブザーバーにも一部参加して頂いた。

以下、開催概要

〈Day1〉

1. 日時：8月2日 13:00～17:00（+質疑&ウェルカムパーティ）
2. 場所：早稲田大学 早稲田キャンパス 11号館 908教室
3. セッション：アート思考、リーダーシップ
4. 参加者：9名（相模原中等教育学校5名、静岡雙葉高等学校1名、大宮国際中等教育学校1名、厚木高校1名、横浜緑ヶ丘高等学校1名）、中2～高2，女子5・男子4名。
5. 講師：福村先生、栗田先生、池上先生。（他、久村理事長、宮本先生も参加）
6. オブザーバー：高原先生・上崎先生（相模原中等教育学校）、木村先生（静岡雙葉高等学校）、大川さん・西本さん（日産自動車 V-up）、岡本医師（東京医科歯科大）。

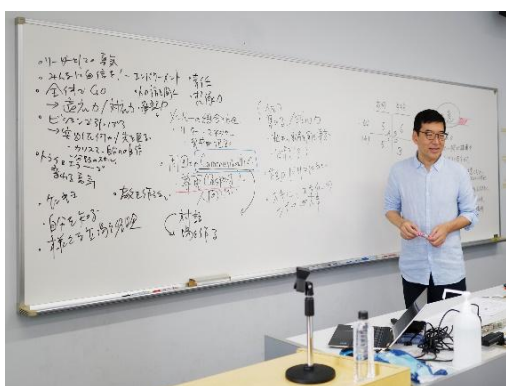
7. 当日の様子



教室全景（オブザーバーも参加）



アート思考（制作と発表）



リーダーシップ（池上先生の講義）



参加者もアート作品の一部

〈Day2〉

1. 日時：8月7日 13:00～17:00（+講師、参観者、事務局の懇談会）
2. 場所：早稲田大学 早稲田キャンパス 11号館 908教室
3. セッション：テクノロジー&イノベーション、SF思考
4. 参加者：7名（相模原中等教育学校3名、静岡雙葉高等学校1名、大宮国際中等教育学校1名、東海大付属高輪台高等学校2名）、中2～高3、女子4・男子3名。
5. 講師：久村理事長、上田エキスパートリーダー（日産）、宮本先生。（他、池上先生、福村先生、伊藤先生も出席）
6. オブザーバー：高原先生・木村先生（相模原中等教育学校）、野口先生（東海大付属高輪台高等学校）、原田先生、大川さん・西本さん（日産自動車 V-up）、杉本弁護士、佐藤さん・山崎さん（リクルート）。

7. 当日の様子：



テクノロジー（久村理事長講義）



アナザーイノベーション（上田先生講義）



SF 思考（宮本先生講義）



システム思考（原田常務理事講義）



講師陣と記念撮影

良かった点：

〈各セッションについて〉

- ・アート思考：ワーク中心で、ぐるぐるシンキングにも言及、やるべきこととその難しさを体感してもらえた。
- ・リーダーシップ：これまでのリーダーシップの理解と、これからのリーダーシップは自らが考えることが必要なことが、講師との対話を通して体得してもらえた。
- ・テクノロジー&イノベーション：たこ焼きワークショップによるシステム思考理解、アナザーイノベーションにより、イノベーションの理解が図れた。
- ・SF 思考：ワークショップ中心で、自分の未来を考えることを体験してもらうことができた。

〈全体を通して〉

- ・やはり時間をかけた講師との直接対話やワークを通じて大変理解が深まるとともに、自分事としてとらえられることが再確認された。また、講師、参観者との意見交換で、今後の進め方に多くの示唆を頂いた。

ファインディングス：

- ・マスター講師のダイバーシティ、様々な生き様、キャラクターの効果も大きいと感じた。→増やす。
- ・何人かの受講生はアルムナイの実行委員にも手を挙げてくれており、さらに次を求めている。
- ・若干難しさがあるところは、順序等を少し変更した方が良い。→システム論（たこ焼き前）
- ・大人にも十分耐えうる内容だと確認できた。
- ・リーダーに必要な能力と今の教育内容を比較し、本教室の理論背景を構築できそう。

以上、得られたファインディングにより、内容の改善を図り第二回の展開編トライアルへ盛り込むこととした。

添付資料 1 3_展開編 # 1 リーフレット

添付資料 1 4_時間割

添付資料 1 5_アート思考 プレゼン資料

添付資料 1 6_アート思考 鑑賞シート

添付資料 1 7_リーダーシップ プレゼン資料

添付資料 1 8_テクノロジー&イノベーション プレゼン資料

添付資料 1 9_アナザーイノベーション プレゼン資料

添付資料 2 0_SF 思考 プレゼン資料

添付資料 2 1_SF 思考ワークシート 未来の学校

添付資料 2 2_SF 思考ワークシート 職業消滅時代

添付資料 2 3_SF 思考ワークシート 進路相談

添付資料 2 4_振り返りまとめ

『未来のリーダー教室 2023』アルムナイ活動

前記展開編のトライアルにおいて、継続的な学びの場としてのアルムナイの立ち上げを告示し、運営委員を募った。その結果、数名の受講生が委員として手を挙げてくれた。委員を中心とした全体の活動については次年度実施に向け打ち合わせを行っているが、それに先立ち委員の一人に手を挙げた相模原中等教育学校の高橋春帆さんが、自校でテクノロジーの講演会を企画・実行したいと提案し、久村理事長・上田講師と直接交渉し実現に至った。

以下、開催概要

1. 日時：2023 年 11 月 14 日（火）14:05～15:45
2. 内容：未来のリーダー教室 テクノロジーパート
・ Another innovation の展示車両あり。（3 台＋久村さんアリア）
3. 対象：相模原中等教育学校 中学3年生、4クラス 160 名
4. 講師：久村理事長、原田常務理事、上田エキスパートリーダー（日産）
5. 講師への交渉と当日の様子



講師と交渉する高橋さん



黒木副校長先生ご挨拶



高橋さんによる開催のご挨拶



テクノロジー（久村理事長講義）



アナザーイノベーション（上田先生講義）



システム思考（原田常務理事講義）



活発な質疑



車両展示 1



車両展示 2



車両展示 3

日産自動車の上田さんチームとは事前打ち合わせや現地調査を実施して臨んだので、多人数であったが、運営もスムーズに行うことができ、質疑等の状況からも生徒たちもかなり理解したことが伝わってきた。また、講義内容もコンパクトで一層わかりやすくなり、特にシステム思考は、たこ焼き屋のワークにおいて、いきなりやらせるよりはやって見せた方が理解が深まることがわかったので、今後のテクノロジーパートへフィードバックすることとした。

添付資料 2 5 _企画書「テクノロジー&イノベーションの講演のご提案」

添付資料 2 6 _講演会振り返り

『未来のリーダー教室 2023』導入編 財団主催

導入編の 2 回の学校導入で得られたファインディングスを見織り込み、一部講師のビデオの取り直しや内容修正・追加を行い、ファシリテーターと最終の打ち合わせを実施の上、コンテンツアップデートの確認と今後ファシリテーターとして実施していく教員の育成を目的に今年度最終の導入編を財団主催で実施した。

以下、開催概要

1. 開催日時：3月10日（日）、12:30～17:00
2. 場所：ステーションカンファレンス川崎
3. 参加者：16名（かえつ有明中3名、相模原中3名・高1名、聖光学院中1名・高2名、東京都市大附属高1名、東海大付属高輪台高1名、川崎総合科学高1名、浦和明け星高1名、清水南高中等1名、長野日大高1名）
4. ファシリテーター：上崎先生。（相模原中等教育学校）
5. オブザーバー：8名（木村先生、野口先生、高原先生、谷川先生（相模原）、敦賀谷先生（4月から宝仙学園）、川端先生（多摩大附属目黒中高）、鈴木さん（本田財団）、田代さん（日産総研））
6. 当日の様子



会場ホワイエ



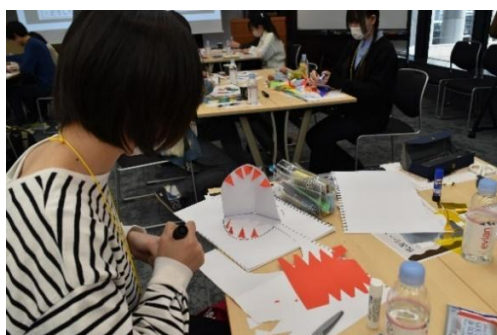
講義の様子



ワーク1



ワーク2



ワーク3



オブザーバー

良かった点：

- ・意味（失敗しても良い、等）を持たせたアイスブレイク、各章の補足説明（SF&ドラえもん）、全体まとめ（日産コマーシャル：矢沢永吉、やるかやらないか）など各所にファシリテーションの工夫があり、受講者の理解を助けた。
- ・今回は遠方からの受講者もいて、受講者同士の論議・交流が大変活発に行われていた。他校の生徒と話すのはとても刺激にもなりとても良いことである。
- ・新設したシステム思考の動画（たこ焼き屋）が大変好評であった。単に未来はこうなる、だけではなくそこから何をすべきかを考える手法を知りえたことが大きかったようである。
- ・会場の利便性、特にアクセス、設備、ケータリング、設営・撤収のサポート等、参加者だけではなく、スタッフ側にとっても非常に快適に開催することができた。

ファインディングス：

- ・設計のねらいに対する、受講者への問いやワークが適切か、またセッション内及び各セッションのつながり等、のチェックが必要との意見がオブザーバー、ファシリテーターより出された。
- ・まだ長いビデオがあるので、ダブリも含めて要検討。なるべくワークに時間をかけるようにしたい。
- ・アルムナイ個別活動として、システム思考の講演会の要望有。システム思考のビデオ追加により理解が深まったことによると思われる。

以上、得られたファインディングスをもとに、次年度改善に繋げる。

添付資料 2 7_導入編 財団主催 リーフレット

添付資料 2 8_時間割

添付資料 2 9_進行用スライド(財団主催)_3.08ver.

添付資料 3 0_アート思考 鑑賞シート

添付資料 3 1_振り返り 0310

添付資料 3 2_見学会（導入編・展開編）リーフレット

『未来のリーダー教室 2023』展開編 # 2

春休みに高校生（中学生含む）を対象に、「未来のリーダー教室」『展開編』の2回目のトライアルを東京医科歯科大学の岡本医師とのコラボにより開催した。

今回も今後導入を検討される学校の先生やファシリテーターとして実施したいという先生方を招いて、教員育成の意味も込めて実施した。また、内容としてもこれまでのフィードバック内容を反映させるとともに最新の情報によるものとした。特にテクノロジーパートは、システム思考とイノベーションに重きを置いたものとし、新たに岡本医師を招いて最新

医療におけるぐるぐるシンキングを学んでもらうことができた。また、実施方法としてS F思考のパートのみオンラインで実施し、ハイブリッド開催の可能性も確認することができた。

以下、開催概要

〈Day1〉

1. 開催日時：3月17日（日）、12:45～18:45
2. 場所：BUKATSUDO（横浜みなとみらい）
3. 参加者：13名（かえつ有明中3名、相模原中3名・高1名、聖光学院高1名、東京都市大附属高1名、学芸大附属国際高1名、浦和明け星高1名、清水南高中等1名、長野日大高1名）
4. セッション：ぐるぐるシンキング振り返り、アート思考
5. オブザーバー：3名（伊藤祐先生（鶴間中）、高原先生、石塚さん（神奈川県教育委員会→4月より厚木高校教頭））
6. 講師：伊藤賀一先生、福村先生、栗田先生
7. 当日の様子



アートプレゼン#1



アートプレゼン#2



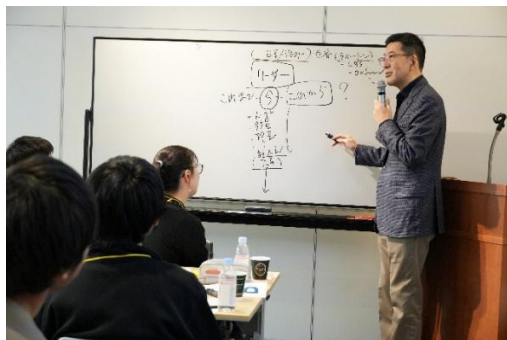
アートプレゼン#3



集合写真

〈Day2〉

1. 開催日時：3月28日（木）12:45～18:45
2. 場所：ステーションカンファレンス川崎
3. 参加者：14名（かえつ有明中3名、相模原中2名・高3名、聖光学院高1名、東京都市大附属高1名、学芸大附属国際高1名、浦和明け星高1名、清水南高中等1名、長野日大高1名）
4. セッション：リーダーシップ、システム思考&イノベーション+医療、SF思考
5. オブザーバー：6名（伊藤先生、高原先生、上崎先生、敦賀谷先生、鈴木さん、山口さん（WAS））
6. 講師：池上先生、久村理事長、原田常務理事、岡本医師、宮本先生（Zoom参加）
7. 当日の様子



池上先生講義



久村さん・原田さん講義



岡本先生講義



宮本先生講義

以下、展開編 # 2 の Day1, Day2 を通しての良かった点とファインディングスを示す。

良かった点：

〈各セッションについて〉

- ・ぐるぐるシンキングの復習講義：池上先生が Day2 になったために行った初めての試みであったが、理解を深める良いきっかけとなった。
- ・アート思考：池上先生 Day2 になったことにより、より時間をかけることができたため『価値』という難しいテーマではあったが、各班素晴らしい作品が創作された。

- ・リーダーシップ：JWで得られた最新のリーダーシップスタイルも紹介され、一層進化した講義であった。
- ・イノベーション：ワークをたこ焼きから医療サービスの変更し、ゲスト講師も医師であったため、全体のつながりもとても良かった。
- ・SF 思考：宮本先生はオンライン登壇であったが、十分にうまく進行でき、ハイブリッド開催の可能性が確認できた。

〈全体を通して〉

- ・ウェルカムパーティも大変盛り上がり、他校の生徒とのコミュニケーションが深まった。
- ・アンケート結果においても、各セッションともわくわく度・理解度ともに4以上（5点満点中）と非常に高かった。また、「未来についてどのようなアプローチで考えたらいいか、想像がついた」等、まさに本教室で学んで欲しいことに気づいたという反響が多数見られた。
- ・クロージングでは全講義の講師が参加し、池上先生の進行により質疑が行われて、一層理解が深まったと思われる。

ファインディングス：

- ・全体的にワークや論議にもう少し時間をかけられると良かった。
- ・全体のメ方としては、導入編とともにメッセージをより明確にする必要があるそう。

以上で展開編の開発は完了とし、得られたファインディングスをもとに、次年度さらなる改善に繋げる。

添付資料 3 3 _展開編 # 2 リーフレット

添付資料 3 4 _Day1 時間割 3.17

添付資料 3 5 _Day2 時間割 3.28

添付資料 3 6 _ぐるぐるシンキング振り返り プレゼン資料

添付資料 3 7 _アート思考 プレゼン資料

添付資料 3 8 _リーダーシップ プレゼン資料

添付資料 3 9 _システム思考&イノベーション プレゼン資料

添付資料 4 0 _医療&創薬におけるイノベーション プレゼン資料

添付資料 4 1 _SF 思考 プレゼン資料

添付資料 4 2 _アルumni活動紹介 プレゼン資料

添付資料 4 3 _Day1 振り返り 3.17

添付資料 4 4 _Day2 振り返り 3.28

プロモーション用ビデオとパンフレットの制作

理論背景を含めたプロモーションビデオ（教員向け、生徒向け）と未来のリーダー教室のまとめビデオを、伊藤賀一先生登壇で制作した。また、パンフレットについては、ライターの優先順位の関係で完成には至らなかったため、次年度作成することとした。



伊藤賀一先生によるプロモーションビデオ&まとめビデオイメージ

添付資料 4 5_プロモーションビデオ（教員向け）

添付資料 4 6_プロモーションビデオ（生徒向け）

添付資料 4 7_まとめビデオ

以上

(3) 『Japanese Way LEADERSHIP 調査』活動報告

本プロジェクトでは、早稲田大学と世界最高峰の大学の一つである Wharton School(米国)との共同研究として、日本のリーダーシップの現状を、トップリーダーへのインタビューという形で調査・分析した。具体的には、日本の各業界の代表的大手企業トップ 200 社を中心に 106 社のトップリーダー（現役と元を含む社長もしくは会長）へのインタビューを実施し、分析を行った。2023 年 4 月～2024 年 3 月にかけてはその調査を具体的な Manuscript（原稿）化し、2024 年度に Wharton School Press からの英語版を出版することができた。

具体的には、以下の活動を行ってきた：

- ・2019年5月～2021年9月：個別インタビュー期間
 - 1時間程度の半構造化インタビュー
- ・2021年10月～2022年3月：初期分析期間
 - 定性分析とトピックモデリング分析（テーマドリブン・テキスト分析）等

以上は前共同研究の成果

- ・2022年4月～2023年3月：分析とペーパー執筆
- ・2023年4月～2023年12月：Manuscript 化と出版社交渉と確定
- ・2024年1月～2024年3月：インタビュー先（各社のトップ）との引用内容確認と掲載許諾の取得。
- ・2024年4月～：原稿再集化、各種確認作業、出版効果を最大化するためのコミュニケーション準備
- ・2024年9月：Wharton Press より出版
- ・2024年9月～：欧米圏で評判を呼び Cambridge 大学のエグゼクティブ向け Podcast 等で本書の特集を受ける等、複数の欧米メディアに取り上げられている。

アカデミックに適切な質を担保するため、インタビューは録音し、それを文字起こしし、日本語インタビューを英語化して分析を行い、毎月 Zoom で米国 Wharton School とミーティングをしながら分析・執筆を分担して進めた。本プロジェクトは、非常にユニークで意義の大きいプロジェクトであると日本の代表的企業のトップリーダーからも下記のような評価をいただいていた。①これまで本プロジェクトのような、グローバル比較が可能な形で、一国によった観点からではなく海外と日本の共同で行われたリーダー調査はなかった ② 日本のリーダーシップ・経営は今変曲点を迎えているように思われるので、この時期にアンケートではなくこうしたリアルに声を聞く深い調査が行われることは良い

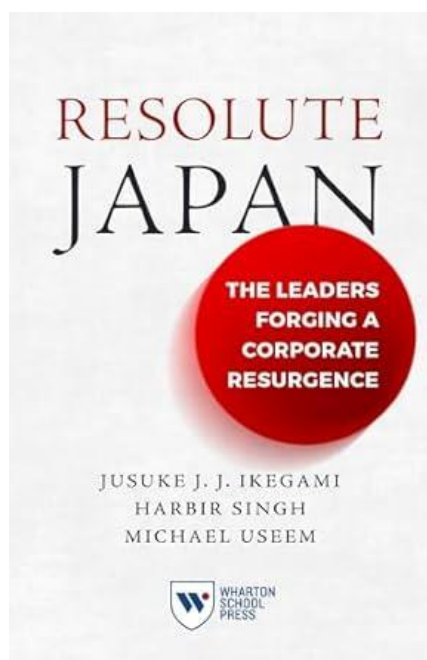
タイミングである。そして、研究開始前に想定していた以上に、日本のトップリーダーの中には世界に対しても影響力を与え得る新たなハイブリッド型のリーダーシップの萌芽が見られることが分かった。

英語版の出版における引用確認・掲載許諾取得のプロセスで、トップの不祥事によりこちらが掲載を見送ったケースと先方が掲載不許可のケースが数件あり、最終的にはインタビュー先として掲載企業は 102 社となったが、本書籍により日本の新しいリーダーシップモデルがどのようにしてトップ企業を変革し、成功に導いたかを解明することができた。

今回の Wharton Press での出版は日本のみでなく海外のリーダーへの大きな示唆を提供できる可能性は大きく、その意義は益々大きくなってきたと思われる。また、本成果として前記『未来のリーダー教室』導入編へ『世界を見ることが重要』という観点を導入してきたが、さらに以下の視点を展開編へ盛り込んでいく予定である

- ① 正解のない世の中
- ② 広い視野（世界の中の日本）
- ③ 日本の良い特徴

また、2024 年度から新たに着手した共同研究では、その活動一部として日本語版の出版準備を進めている。日本語版出版後は日本のメディア等でも告知を開始する予定。



出版された英語版書籍

(4) 収支報告

2024年度 公益財団法人日産財団共同研究費

研究題目：「初等中等教育段階におけるリーダー資質の萌芽・育成に関する調査研究」

収支報告書

(収入)

明細	金額 (円・消費税込み)	受入れ日付	備考
入金	9,980,000	2022/4/28	直接・間接経費
収入合計	9,980,000		

(支出)

明細	金額 (円・消費税込み)	支払い日付	備考
2022年度支出合計	2,975,327	2023/3/31	2022年度末報告分
2023年度支出合計	1,192,459	2024/3/31	2023年度末報告分
2024年度支出合計	5,812,214		
(内訳)			
委託費	1,490,000	2025/3/17	日産財団共同研究支援業務2024
雑費	1,183,446	2025/3/28	学会参加費、年会費、「Resolute Japan」広報サービス費用
消耗品費	6,806	2025/3/25	プリンタインク
図書費	336,964	2024/11/22	海外学会資料費：AIB、書籍52冊、献本書籍60冊
通信・運搬費	73,084	2024/8/30	海外WiFi
用品費	535,810	2024/4/26	ノートPC、PC本体
旅費交通費（国内）	223,124	2025/3/28	2月北海道ニセコ出張
旅費交通費（海外）	1,569,094	2024/8/30	7月韓国出張、8月アメリカ出張
人件費	393,886	2025/1/31	リサーチアシスタント、研究補助者
支出合計	9,980,000		

上記の共同研究経費について、上記のとおり執行を確認しましたので、報告します。

2025年3月31日

早稲田大学 総合研究機構

グローバル・ストラテジック・リーダーシップ研究所

池上重輔

以上